



図1 斃死2例目の繁殖和牛(49ヶ月齢)外貌所見



図2 (左)斃死2例目の繁殖和牛の肝臓の解剖所見 (右)摘出された肝蛭虫体

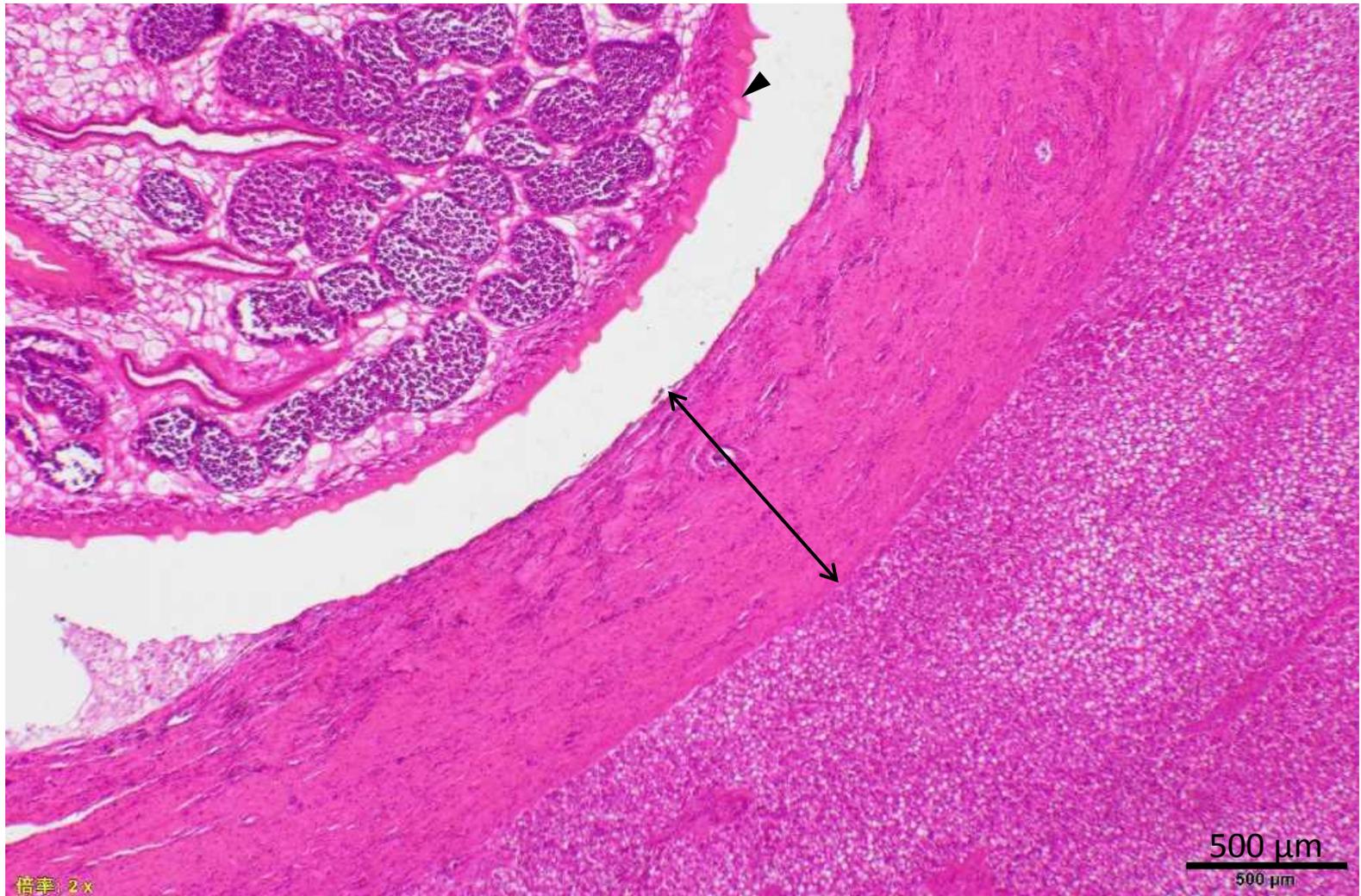


図3 斃死2例目の繁殖和牛の肝臓病理組織像
(両矢印:胆管壁の肥厚 矢頭:肝蛭虫体)

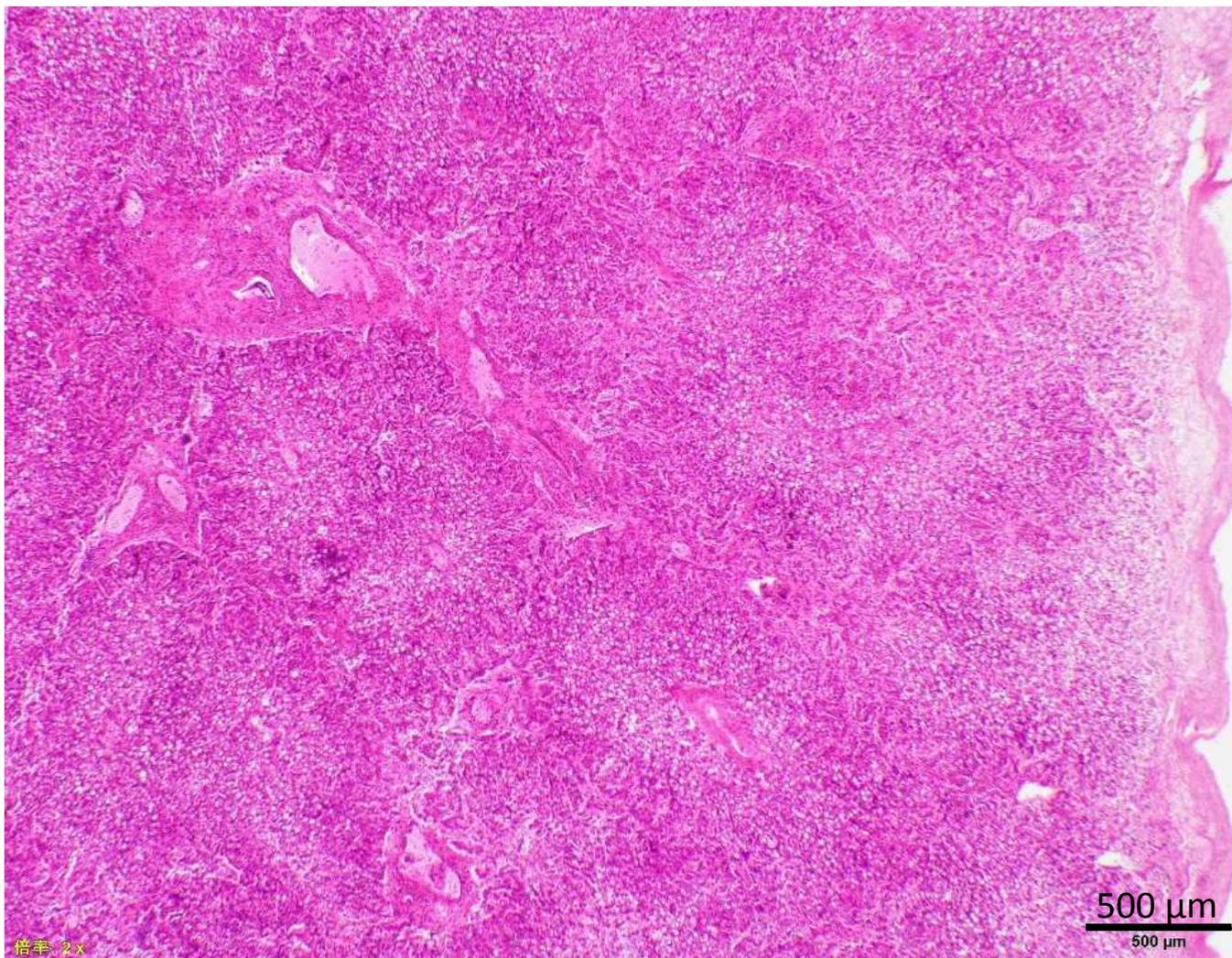


図4 斃死2例目の繁殖和牛の肝臓病理組織像(肝小葉不明瞭)

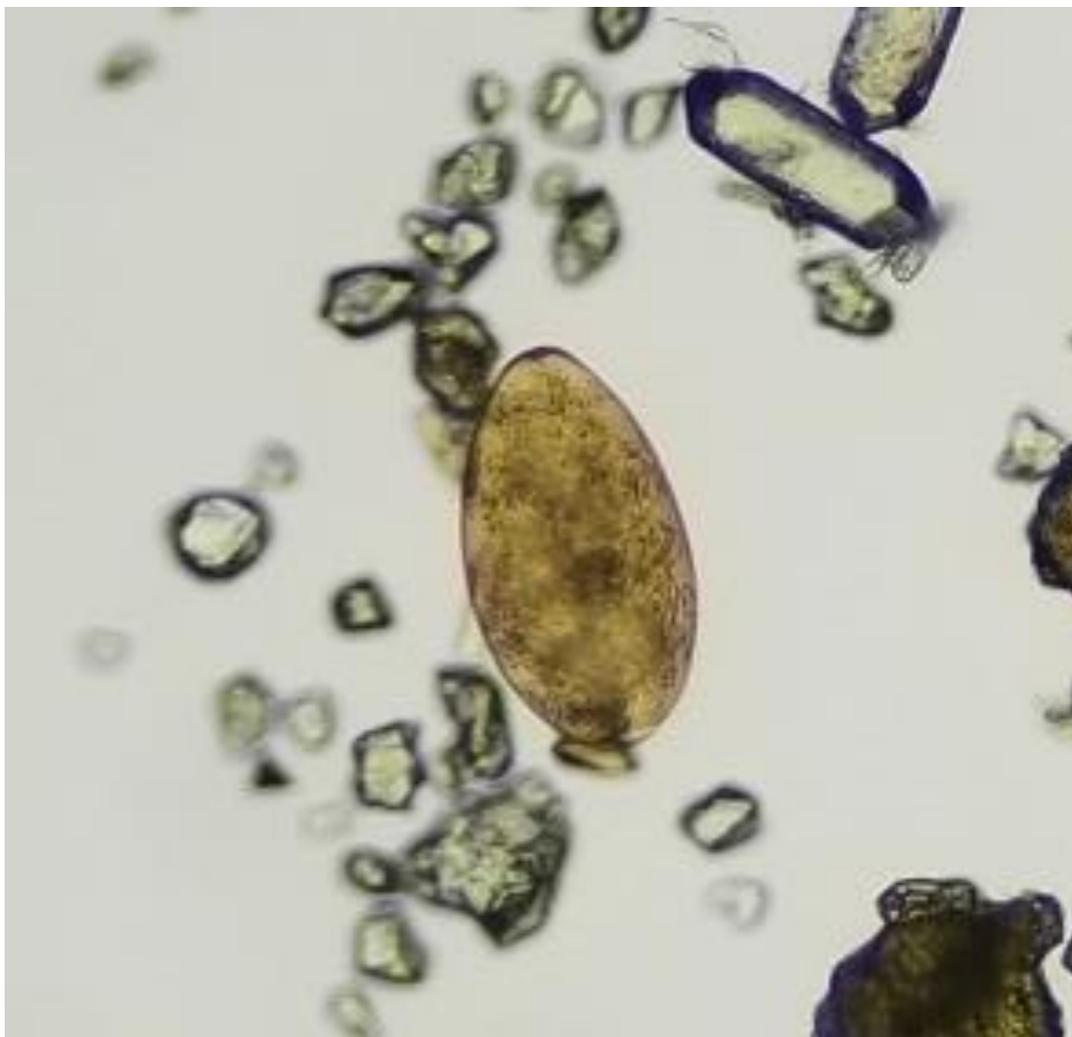


図5 糞便検査で検出された肝蛭虫体

表1 A農場における肝蛭虫卵検出牛の生化学検査結果

	牛①	牛②	牛③	牛④	牛⑤	牛⑥	牛⑦	牛⑧
GGT(U/L)	405 ↑	677 ↑	759 ↑	>1200 ↑	73 ↑	104 ↑	>1200 ↑	19
Alb(g/dl)	2.7 ↓	2.7 ↓	2.0 ↓	2.7 ↓	3.2	3.0 ↓	2.8 ↓	3.3

令和元年11月22日

紀南家畜保健衛生所

令和元年11月に採材した糞便検査の結果について

令和元年11月に採材した糞便について、糞便検査を行った結果、肝蛭(かんてつ)が見つかりました(別紙参照)。

～肝蛭症への対策～

・同居牛への感染を防ぐため、ブロムフェノホス製剤(アセジスト細粒)

の投与を行ってください。

- ・牛・成牛 400～500kgに、本品 20～25gを約 500mLの瓶に入れ、瓶の約 2/3 容量の水を加えてよく振り混ぜて経口投与してください。
- ・産後1カ月くらい時点の牛に飲ませるようにしてください。(年1回投与)
- ・出産予定の1カ月前の牛には投与しないこと。
- ・使用禁止期間:食用に供するためにと殺する前21日間



図6 駆虫薬投与方法についての資料